

(別紙様式)

平成 28 年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

申請区分: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
 産学官連携フュージビリティ・スタディ
 共同研究集会 産学官連携課題設定集会

研究課題名:「北極域と日本を往復する渡り鳥個体データベースの統合とオープンサイエンス化に向けた民官学連携会議」

研究期間: 平成 28 年度

共同研究員	氏名	所属・職名
研究代表者	立澤史郎	北海道大学大学院文学研究科
研究分担者(拠点外)	澤 祐介	一社)バードライフインターナショナル東京・事業開発部長
	池内 俊雄	雁の里親友の会・事務局長
研究分担者(拠点内)	内田 雅己	国立極地研究所・准教授

【研究の内容】

わが国における渡り鳥の標識調査は、CAFF(北極評議会動植物保全ワーキンググループ)でも評価されているが、今後追跡が必要な種も多く、一方で活用されていないデータやデータベースも多い。そこで、CAFF やラムサール条約などの国際的な議論に貢献することをめざして、特に CAFF で問題になっているガン・カモ類(特に季節移動の状況が全く不明であるコクガン)を事例としながら、これまで行われてきた標識調査のデータ・データベースの管理・運用状況の整理、および、今後の調査のあり方を国際的に議論する会議(コクガンワークショップ)を、平成29年3月17日から19日までの3日間、北海道大学白尻臨海実験所にて行った。会議は、日本のガン・カモ類の調査グループの主要リーダー(7名)のほか、ロシア(平成28年度北極域研究共同推進研究事業で招聘)、アメリカ、中国からも参加を得て実施され、過去の調査データ・データベースの実態が国際的に明らかになると同時に、東アジア・オーストラリアフライウェイにおける今後の課題と各国の役割分担が「コクガン国際共同研究行動計画」として策定された。この行動計画は同フライウェイ国際事務局(在インチョン)を通じて CAFF の Arctic Migratory Birds Initiative (AMBI)に提出・承認される予定である。



左写真)ワークショップの様子

右写真)今回の集会をきっかけに移動状況が判明した(米国で狩猟されていた)中国で標識された個体(中国科学院ほか提供)

【研究論文や著書等】

・平成29年度中に東アジア・オーストラリアフライウェイ(EAAF)国際事務局ニュースレターに報告掲載予定。

【研究発表】

なし

【特許等】

なし

【アウトリーチ、取材、その他】

なし